

Rosette™

ACOUSTIC DI-PREAMP

取扱説明書



安全上の注意

- ・ この取扱説明書をよくお読み下さい。
- ・ この取扱説明書に従って下さい。
- ・ 本商品を水分の近くで使用しないで下さい。
- ・ 本商品を掃除するときは乾いた布のみを使用して下さい。
- ・ 本商品に対応した電源アダプターのみ使用して下さい。
- ・ 電源コード、特にプラグ部分は踏んだり無理に引っ張ったりしないで下さい。
- ・ 本商品は雷が鳴っているときや長い時間使用しないときは電源を接続しないようにして下さい。
- ・ 本商品に不具合が生じた場合は最寄りのMESA/BOOGIE取扱楽器店または修理業者に相談して下さい。
また液体やゴミが商品内部に入らないように注意して下さい。故障の原因となります。
- ・ 照明の近くで本商品を使用したり保管しないで下さい。
- ・ **警告**：火事や電気ショックの危険を避けるため、本商品を雨や水分にさらさないようにご注意下さい。
- ・ スピーカーや再生機器を損傷しないように、本商品と他の機材と接続する際は電源を切っておいて下さい。
- ・ 今後も参照して頂けるようにこの取扱説明書を保管しておいて下さい。
- ・ 本商品のボタンやスイッチ、コントロールを操作する際は力を入れすぎないようにして下さい。また本商品を掃除する際はベンジンやシンナー等は使用しないで下さい。
- ・ 本商品のリアパネルに記載されている仕様を持つ電源アダプターのみを接続して下さい。また本商品を使用する地域で正しいアース接続が行われるようご注意下さい。誤った接続やアース接続による故障は保障の対象外となります。

概要

この度は、ROSETTE™ DI-PREAMP をお買い求めいただきありがとうございます。そしてメサ/ブギー・ファミリーへようこそ！まず最初に、お使いのアンプにメサ/ブギーをお選びいただきありがとうございます。私達は、あなたの音楽制作の手助けが出来ることを心から嬉しく思います。我々が目指しているのは、少しでもあなたの作品が良いものになるように、いつでも力になれる準備をしておくことなのです！私達は、この新しい DI-PREAMPが、これから永きに渡り、あなたの信頼を獲得し、あなたの音楽を自由に表現するための良きパートナーとなれることを確信しています。あなたが選んだ楽器は、いくつもの優れたアンプが生み出された中でも、大いなる遺産となるトーンの聖書とでも呼ぶべきモデルです。

Rosette シリーズが目指すゴールは開発当初から明確でした。卓越したサウンドの追求は、MESA 史上初めてのアコースティック楽器用コンボアンプとDIプリアンプ/ペダルの誕生へとつながりました。

Rosette では、ハイエンド・レコーディング・コンソールの設計をもとにデザインを決定し、市販の多くのアコースティック・アンプで採用されているユニバーサル XLR + 1/4" コンボジャックの、一般的によくあるような兼用回路ではないインプットステージを開発しました。その代わりに、何十年もの間行われてきた素晴らしいレコーディングで実証された、妥協のない、正確な真実のサウンドを提供するための専用設計を選択しました。

このアコースティック楽器専用のPreampとDIプラットフォームは当初はアコースティックギター用に設計されていましたが、マンドリン、ウクレレ、バイオリン/フィドル、ダルシマー、チェロ、アップライトベースその他のアコースティック楽器にも最適です。Rosette DI Preampには、プロのライブプレイヤーにマッチした豊富な機能を搭載していますが、ツアーレベルのラインレベルバランスプリアンプ出力とスタジオクオリティのマイクロレベルバランスダイレクトアウトも含まれています。

ROSETTE DI Preampと2x8 Comboは、MESA/Boogieのアンプラインの新しいフロンティアです。このトーン・インパクトのパワーハウス・ペダルは、コンパクトで軽量ながら、カリフォルニア州ラグニタスのレッドウッドの小屋で約50年前に始まったレガシーを続けるために必要な機能とコントロールを備えています。RosetteのようなすべてのMESAアンプと製品は、アメリカはカリフォルニア州のベタルマでハンドメイドにて生産されています。

TOP PANEL CONTROLS & FEATURES

INPUTジャック シャーシの右側にあるこのジャックは、ROSETTE™DI-PREAMPの初段のモノリシックJFETバッファーアンプに信号を供給するPICKUP INPUTです。このインプットバッファーアンプの入力感度は、すべての一般的なピックアップレベル、インピーダンス(インプットインピーダンスは約1MΩ)と互換性があります。ジャックに1/4" (6.3mm)プラグを差し込むと自動的に電源が入りますが、1/4" (6.3mm)プラグはTIP-SLEEVEタイプのケーブルをご使用ください。TIP-RING-SLEEVEタイプのプラグではPower-ON回路が正しく動作しない可能性があります。

TUNER OUTPUTジャック シャーシ左側にあるこのジャックはTUNER OUTPUTです。出力信号は完全にバッファードされており、MUTEフットスイッチを踏むとPA、ステージスピーカーまたはレコーディングデバイスに信号を送信しない状態での "サイレント"チューニングが可能です。

MUTEフットスイッチ このフットスイッチは、DIRECT OUTPUT、FX SEND、PREAMP OUTPUTへ送られるオーディオ信号をミュートすることが可能で、チューナーを接続している場合にはサイレントチューニングにも対応しています。DI-PREAMPがMUTEモードになっているときは赤色のLEDインジケーターが点灯します。

POWER LED この青色のLEDは、アンプが電源に接続されておりスイッチがONで正常に動作していることを示します。

BOOSTフットスイッチ このフットスイッチは、ブースト(またはソロ)機能を備えています。ブースト量は、DI-PREAMPのトップパネルにあるブーストコントロールで設定します。DI-PREAMPがBOOSTモードのときには緑色のLEDインジケーターが点灯します。

INPUT (GAIN) このコントロールは、Rosette DI Preのゲインステージ初段であるINPUT GAINを決定し、結果的に次のステージが動作するレベルを設定することになります。さまざまな楽器の適正なゲイン構造に対応するためにこのステージにはかなりのヘッドルームがありますが、ピックアップの種類によっては、極端な設定やアグレッシブな演奏スタイルでINPUTステージをオーバードライブさせることも可能です。このような場合は、マスターボリュームコントロールの設定を大きくし、INPUTコントロールを小さく設定してください。

PHASEスイッチ このスイッチは、チューナーアウトプットを除くすべての出力端子に対してRosette DI PreのPHASE(極性)を設定します。使用する楽器のピックアップやマイクの配線に応じて正位相か逆位相のいずれかになりますが、視認できるものではありません。ある特定の条件下では、楽器からの信号とスピーカーからの信号の極性が同じ場合フィードバックが問題になります。フィードバックを抑えるためにHI-PASS、NOTCH FILTERやEQを使用する前に、フィードバックが発生しにくい側のポジションにスイッチを設定してください。

BOOSTコントロール

このコントロールは、BOOST FOOTSWITCHがONのときのBOOST(またはSolo)レベルの量を設定します。反時計回りの設定だとゲインはほとんど増えず、時計回りに回しきるとOFF時のレベルから約6dBゲインがアップします。

NOTCH FILTER

このコントロールは、レスポンスの狭いノッチ(カット)が配置される周波数ポイントを設定します。このフィルターは、アコースティック楽器本体から発生する過大なレゾナンスが原因で引き起こされるフィードバックを、その帯域内で増幅されるエネルギーの量を減少させることで除去します。中低域または低域共鳴/フィードバックが発生した場合(より高い音量ではより発生しやすくなります)、共鳴が低下するか音量が大幅に減少するまでゆっくりと時計回りに(7時/OFFの状態から)回していきます。通常、このコントロールはHI-PASS FILTERコントロールを設定した後で使用します。ノッチのスweep範囲は40Hz~500Hzで、40Hzに設定するとフィルターはバイパス/OFFになります。

HI-PASS FILTER

このコントロールは、特に大音量の条件下で、超低域のレスポンスをコントロールする重要な機能です。この周波数可変タイプの精密な2ポールフィルターは、最小のリプルレスポンスで40Hz~200Hzの範囲を滑らかにスweepするターンオーバー周波数を備えています。ハイパスフィルターは、プロオーディオ業界では長きにわたって標準的なものですが、ここ数年でアコースティック楽器やベース・アンプで見受けられるようになりました。この可変タイプのフィルターは、キャピティアーがより大きなアコースティック楽器(チェロ、マンモ・チェロ、アップライト・ベース、ピオラ、ジャンボ・ギター、一部のドレッドノート・ギターなど)が発生させるサブ・ソニック・ハーモニクスをコントロールするのに効果を発揮します。まず最初はコントロールを完全に反時計回りに回しきり、楽器を接続したら低域がフィードバックしはじめるのが聴こえるまでゆっくりチャンネルの音量を上げていってください。そして次に、この低域のフィードバックが発生しなくなるまでHI-PASS FILTERコントロールを時計回りに回していきます。トーン・エンハンス機能としても有効で、楽器のローエンドがブーミーに感じられる場合は、BASS EQを調整する前に、トーンに明確な改善が得られるまでこのコントロールを時計回りに回してみてください。実験と練習はこのアプローチの鍵であり、多くの異なる使用環境、特にライブパフォーマンスやレコーディングにおいて素晴らしいトーンを得るためのミュージシャンの秘訣です。

BASSコントロール

このアクティブタイプのEQコントロールは、信号の低域の周波数の量を決定します。150Hz以下の低音域は、ボトムエンドの丸みや充実感、トーンの「フィール」を担っています。このブースト/カットが可能なアクティブタイプのコントロールは、フラット・ポジション(12時方向)から右側に時計回りに回すとブーストされ、左側に反時計回りに回すとカットします。シェルビングスタイルのフィルターですので、低域の唸りが発生したりトーンがファットすぎると感じた場合には、このコントロールを少し下げてみてください。BASS EQコントロールを使用する前に、先にHI-PASS FILTERでレスポンスを細かくチューニングすると効果的で、BASS EQとHI-PASS FILTERを組み合わせることでこれらの低域コントロールの1つだけを調整するよりもより顕著な効果が得られる場合が多いでしょう。

LOW & HIGH MIDコントロール

このアクティブEQコントロールは、信号のLOWおよびHIGH MIDRANGE周波数の量を決定します。セミパラメトリック・トーンコントロールと同様に、12:00の“フラット”(カットまたはブーストなし)ポジションから、選択した周波数帯域のカット/ブーストをコントロールするGAINコントロールと、幅広い周波数コントロールが可能なFREQUENCYコントロールで構成されています。

トーンの要となる魅力的なMIDの設定方法について:

レコーディング及びライブサウンドのエンジニアは、バランスのとれたサウンドを実現することをさらに突き詰めていくよりも、望まないものを取り除くことの方がはるかに効果的であることを昔から知っています。この手法はノイズフロアを減らし、クリッピングを回避することで、ある特定の周波数をブーストするよりも全体的により良い結果を生み出します。この実証済みのオーディオのゴールデンルールを無視しないことが、素早く簡単に偉大なトーンに辿り着く近道となります。

LOW MID BAND: BASSを10時、TREBLEを11時、MID FREQUENCY LOWとHIGH MIDの両方を全て12時に設定します。LOW MID GAINを2時まで上げて、LOW MID FREQUENCYを12時から前後にスイープして望まない周波数が聴こえたらそこでストップします。次に、お好みのブレンドの状態になるまでLOW MID GAINを下げていきます。周波数を上げすぎたり、サウンドが不自然にならないように注意しながらコントロールしてください。

HIGH MID BAND: LOW MID FREQUENCYコントロールと同じ手順を繰り返した後、HIGH MID GAINを2時まで上げて、HIGH MID FREQUENCYを12時から前後にスイープして望まない周波数が聴こえたらそこでストップします。LOW MID GAINを2時まで上げて、LOW MID FREQUENCYを12時から前後にスイープして望まない周波数が聴こえたらそこでストップします。次に、お好みのブレンドの状態になるまでLOW MID GAINを下げていきます。周波数を上げすぎたり、サウンドが不自然にならないように注意しながらコントロールしてください。通常MID GAINの設定を11時、場合によっては10時くらいの低い設定にすれば不必要な周波数は十分に除去されます。LOW MID FREQUENCYは150Hz~1800Hzの間で周波数をコントロールすることで、トーンの「太さ」や「温かみ」を担います。HIGH MID FREQUENCYは300Hz~5000Hzの間の周波数をコントロールし、「アタック」や「バイト感」といったトーンキャラクターに影響します。ブースト・カット可能なこれらのLOW MID GAINおよびHIGH MID GAINのアクティブタイプのトーンコントロールは、フラット・ポジション(12時方向)から右へ時計回りに回すとブーストし、フラット・ポジション(12時方向)から左へ反時計回りに回すとカットします。

注意: GAINコントロールが“flat”(12:00)ポジションの状態だと、そのバンドにおいてカット/ブーストが行われていないためFREQコントロールをスイープしても変化はありません。

このコントロールのスタイルは、ピークティップ(またはベル)スタイルのフィルターです。Rosetteでは、HIGH及びLOW MIDのペアで構成されるMIDコントロールが、プロフェッショナルなレコーディングやライブサウンドのミキシングコンソールにしかない正確さと柔軟性をもたらします。上記の基本的な手順からスタートすることで、どんな楽器を使用しても素晴らしいトーンを、簡単にそして自信を持って設定することができます。

TREBLEコントロール このアクティブタイプのEQコントロールは、信号の高域の周波数の量を決定します。5kHz以上の周波数帯域に対応しており、これらは音の「ブライトネス」や「エア感」、「きらめき」といったトーンキャラクターを担っています。ブースト/カットスタイルのパワフルなアクティブコントロールで、“フラット”ポジション(12時)から右側に時計回りに回すとブーストされ、左側に反時計回りに回すとカットします。サウンドが

明るすぎたり、厚みが不足している、またはエッジが効きすぎていると感じる場合は、このコントロールを少し下げてください。シェルピングスタイルのフィルターで、HIGH/LOW MIDのセミパラメトリックスタイルのコントロールのように調整することはできませんが、より広範囲の周波数をカバーしています。

MASTER VOLUME このコントロールは、PREAMP OUTPUTSに送られる信号全体のレベルをコントロールし、ROSETTE™ DI-PREAMP全体のボリュームを決定します。INPUT(GAIN)コントロールとMASTERコントロールを組み合わせることで、出力音量を最適な状態にコントロールすることができます。例えば、出力レベルが非常に高い楽器を使用している場合は、INPUTコントロールを少し低く設定し、MASTERコントロールを少し上げることでインプットステージのオーバードライブを回避しながら適正なボリュームを得ることができます。同様に、出力レベルが非常に低い、もしくは弱い楽器を使用している場合は、MIC GAINまたはINSTRUMENT GAINコントロールを高くして、MASTERコントロールを低くする必要があります。

REAR PANEL CONTROLS & FEATURES

駆動電源と電源ジャック ROSETTE™ DI-PREAMPは、9V電池(アルカリ推奨)またはプラグ部分が標準の2.1mmセンターピン/5.5mmバレルタイプの、標準の9VDCセンターマイナスの電源アダプターで駆動するように設計されています。外部電源アダプターが接続されているときは自動的にアダプターでの駆動となりますが、内部電池は有効な状態に保たれます(ACアダプターでの電源供給がされない場合は自動的に電池駆動に切り替わります)。電池は本機の底面にあるバッテリーボックスのカバーを外して装着します。内部回路は電池に問題があったり極性が反転した電源アダプターが接続された場合でも、保護されるように設計されています。DI-PREAMPに必要な電流は20mA以下ですので、およそ15-25時間の電池寿命を可能にしています(使用条件によります)。DI-PREAMP自体に外部パワーサプライからのノイズ耐性がありますが、前後に接続されるエフェクトペダルや機器によってグラウンド・ループノイズが発生することがあります。ノイズが発生したときは、まず最初にDI-PREAMPに電源を供給し、次にノイズの原因でないペダルを1台ずつ追加していきます。

PREAMP OUT XLRジャック このジャックはバランス端子となっており、MASTERボリュームを高めの設定にすると(ラインレベルで)+4dBu、アウトプットレベルが最大で+12dBuとなります。XLR PPREAMP OUTは、現在市販されている標準のプロオーディオパワーアンプやパワードモニターのいずれかとの組み合わせで駆動させるのに十分な信号を提供します。Rosette DI Preは、標準のパワードモニター、パワーアンプ、スピーカーエンクロージャーにプラグインすることで、高度なアコースティック楽器のトーンコントロールデバイスとして、非常にコンパクトで便利です。なお、ここからの信号は、MASTERボリュームコントロール、また全てのボイシングやEQフィルター通過後の信号が抽出されています。また、ファンタムパワーを持つインプット信号からの予期せぬ接続に備えて、完璧なファンタムパワープロテクトが搭載されています。

PREAMP OUT GROUND LIFTスイッチ

このスイッチで、XLR PREAMP OUTコネクタの1番ピンから、サーキットのグラウンド/アースを切り離します。バランスアウトは、1番ピンやアンプに信号を送る際のシールド接続には影響されません。1番ピンが常にアンプのグラウンドバスに繋がっていても、しばしば(建物のアース環境によって違いますか)電流は通常の接続状態でグラウンド内で浮遊するためハムノイズを発生させます。(リアンプの)センドの最後でグラウンドをリフトさせることにより、グラウンドの浮遊電流が信号にハムノイズを誘導しようとしても、シールド状態を保ちます。一つ、これを複雑にするのが大変高い(ラジオ)周波数で、グラウンドが本当にグラウンドしているわけではないため、このネットワーク内に追加のテクニックが必要で、同じネットワーク内に2つの機能的なグラウンドのスペクトルを持って追加のRFI(ラジオ・フリークエンシー・インターフェース)の範囲を与えるのです。一般的なルールとしては1番ピンをリフトして、もしノイズが出ればこれを試して下さい。また注意しておかなければいけないのはノイズには他の様々な原因があるということですが、このスイッチの切替によって、リアンプとパワーアンプの間に発生するグラウンドループ(ノイズ)は多くの場合解決されるでしょう。

PREAMP OUT 1/4"(6.3mm)ジャック

このジャックはアンバランス端子で、(ラインレベルで)+4dBu、アウトプットレベルが最大で+6dBuを供給することが可能です。アンプやパワーアンプのインプットジャック、およびFXリターン・パワー・セクションインプットのいずれかを搭載した標準タイプのパワーアンプを駆動させることができます。このアウトプットはファンタムパワープロテクトされています。

FX LOOP 1/4"(6.3mm)ジャック

シリアル(シリーズ)FX LOOP(FX SENDとFX RETURN端子)を使用すれば、ラインレベルのアウトボードエフェクトデバイスとコンプレッサーのようなペダルの両方を接続することが可能で、さらにアウトボードデバイスのウェットドライミックスコントロールを使用すれば、ディレイ、リバープ、ハーモナイザー、オクターバーなどのパラレルアウトボードデバイスやペダルをコントロールすることも可能です。このループは、MASTERボリュームコントロールの直前に位置しており、RETURNジャックには、プラグがRETURNジャックに挿入されるたびに信号を遮断して、プラグが取り外されると自動的にFX LOOPをバイパスする「ノーマルスイッチ」を搭載しています。このため、FX SENDジャックは、post-EQ、pre-MASTERアウトプットとして使用することもできます。

DIRECT OUT XLRジャック

Rosette DI Preを他の製品と区別する機能が、スタジオグレードのXLR(オス)バランスダイレクトアウトプットです。この高品質でプロフェッショナルなアウトプットは、500フィート(約150m)のバランスドのアナログラインでも問題なく使用することが可能で、完全なファンタムパワープロテクトに加え耐ノイズ性と安定性が保証されているので、ステージモニターやライブハウス/レコーディングコンソールへ高品質な状態で信号を伝送することが可能です。プロオーディオ規準の2番ピン(ホット)、3番ピン(コールド)、そして1番ピン(グラウンド)という配線構成で世界的によくあるコンソールの配線規格となっているので、本機はお好みのコンソールへのシームレスなインターフェースとなり得るでしょう。。このフル装備のDIセクションによって、Rosette Preは、クラブからコンサートステージ、スタジオまであらゆる規模の会場で、あらゆる環境で輝く完全なプロフェッショナル・パフォーマンスツールとして活躍することでしょう。

DIRECT OUT GROUND LIFTスイッチ このスイッチで、XLR DIRECT OUTコネクタの1番ピンから、サーキットのグラウンド/アースを切り離します。バランスアウトは、1番ピンや、コンソールに信号を送る際のシールド接続には影響されません。1番ピンが常にコンソールのマスター・グラウンドバスに繋がっていても、しばしば(建物のアース環境によって違いますか)電流は通常の接続状態でグラウンド内で浮遊するためハムノイズを発生させます。(プリアンプの)センドの最後でグラウンドをリフトさせることにより、グラウンドの浮遊電流が信号にハムノイズを誘導しようとしても、シールド状態を保ちます。1つ、これを複雑にするのが大変高い(ラジオ)周波数で、グラウンドが本当にグラウンドしているわけではないため、このネットワーク内に追加のテクニックが必要で、同じネットワーク内に2つの機能的なグラウンドのスペクトルを持って追加のRFI(ラジオ・フリークエンシー・インターフェース)の範囲を与えるのです。一般的なルールとしては1番ピンをリフトして、もしノイズが出ればこれを試して下さい。また注意しておかなければいけないのはノイズには他の様々な原因があるということですが、このスイッチの切替によって、プリアンプとコンソールの間に発生するグラウンドループ(ノイズ)は多くの場合解決されるでしょう。

DI OUT SOURCEスイッチ このスイッチでDIRECT OUTの信号を送る際の信号の発生するルートを選択します。PREの位置では、信号はインプット・バッファー(PREゲインコントロール)から直接供給されるため、ROSETTE INPUT(GAIN)とEQの設定はサウンドには影響しません。このスイッチをPOST位置にすると、信号は4バンドEQのアウト、そしてマスターボリュームの前から出力されます。通常PA用には、ハウスエンジニアはプリEQのセンド信号を好みますが、理由はエンジニアのPAシステムと会場のニーズはステージ上の機材とは異なり、より大きなシステムやステージより広い空間だと上手くない場合があるのです。レコーディングでは、エンジニアの目指すサウンドにも依りますが、PREでもPOSTでもどちらでも使用することができます。

ROSETTE™ DI-PREAMP

Specifications

Output Levels:	Nominal	Maximum (nominal)
Preamp Output (XLR balanced):	+4dBu	+12dBu (line)
Preamp Output (1/4" unbalanced):	0dBu	+6dBu (line)
DIRECT Output (XLR balanced):	-30dBu	-10dBu (mic)
EFFECTS LOOP (1/4" unbalanced):	0dBu	+6dBu (line)
Signal to Noise Ratio:	-77dB (20-20kHz, unweighted, battery operation)	
Maximum Available Gain:	~42dB, (eq controls flat, passive mode, XLR preamp output))	
Equalization:	Bass: +14dB/-14dB @ 40Hz [note 1] Low Mid: +14dB/-14dB @ 150Hz-1.8kHz High Mid: +14dB/-14dB @ 300Hz-5kHz Treble: +11dB/-14dB @ 4kHz [note 1]	
Notch Filter:	40Hz – 500Hz, sweepable	
High Pass Filter:	40Hz – 200Hz, sweepable 2 pole, modified Butterworth alignment	
Power Requirements:	9 V alkaline battery or 9 VDC external power supply (2.1mm, center negative)	
Current draw:	~20mA average	
Battery Life:	~20-25 hours average	
Size:	2.56" (65mm) wide x 5.50" (140mm) deep x 8.19" (208mm) high [note 2]	
Weight:	Approx. 2 lbs (0.91 kg) [note 3]	

[note 1]: measured approx. 1 octave from knee

[note 2]: including feet and controls

[note 3]: not including battery

商品改良のため、仕様や外観は予告なく変更されることがあります。



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）